

Obituary of the Late Mr. Tetsuo AMANO

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-12-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Hatusima, Sumihiko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00056212

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



○ 天野鉄夫氏を悼む(初島住彦) Sumihiko HATUSIMA: Obituary of the Late Mr. Tetsuo AMANO

天野鉄夫氏は明治45年3月31日の沖縄本島北部の大宜味村字饒波に生れ、名前は金城鉄郎^{アツオ}と称した。喜手納にある県立農林学校を昭和6年に卒業し、静岡県農林省茶業試験場付属茶業講習所(2年制)に入所し、帰郷後は国頭郡農業改良組合に就職、この頃から植物採集をはじめ、標本は東大の本田正次、伊藤洋、佐藤正巳、京大の大井次三郎、北村四郎、田川基二、外山礼二、上野博物館の佐竹義輔、台北大の正宗巖敬、鈴木時夫、福山伯明の諸氏に送り鑑定してもらっていた。昭和15年4月(29才)に中国大陸に渡り、華北交通株式会社通州農業試験場の林産係長となる。昭和20年の終戦後日本へ帰還するまで北支蒙疆で約3,500点の植物標本を採集し、それらは大井次三郎、北村四郎、北川政夫、田川基二の諸氏に送り鑑定してもらっている。沖縄に引き揚げた後辺土名高校の教官となったが1年でやめ、昭和22年に沖縄群島の政府に入り、昭和25年琉球農林省農政局農産課生産係長、昭和27年琉球政府経済局農林課特産係長兼課長代理、昭和38年琉球政府計画局参事官、昭和39年琉球政府経済局次長、全40年琉球政府経済局農林部長、27日間にわたって南米、北米を視察、昭和42年濠州、東南アジアに調査旅行、昭和42年琉球政府大衆金融公庫常任理事に就任し5年間勤め役人生活を終っている。この間沖縄県文化財保護審議委員、天然記念物専門委員、沖縄県自然環境保全審議委員、沖縄の文化と自然を守る10人委員、沖縄県緑化推進委員会委員長、沖縄県蘭協协会会长などを歴任している。氏は植物の外貝類にも興味を有し4年間で1,100種を採集し、採品は黒田博士に鑑定を依頼し、アマノヤマタカマイマイの新種も発見している。また氏の新聞切り抜き収集は有名でスクラップブック239冊に達している。受賞としては「緑化功労」=沖縄県知事、「拡大造林、国土保全功労」=沖縄県知事、「沖縄タイムス文化賞」、「県産業経済功労賞」=沖縄県知事、「国土行政功労賞」=国土庁長官などがある。上記海外旅行の際は熱帯の花木、ヤシ、カトレア、パインなどの優良品種を沖縄に導入している。著書としては「蔡温とその林業技術」、「沖縄植物研究史」、「沖縄喪失の危機」、「琉球植物目録(共著)」、「琉球列島植物方言集」、「琉球列島有用樹木誌」などがある。氏を記念してつけられた学名に *Rhododendron amanoi* OHWI, *Deutzia amanoi* HATUSIMA, *Sacchorum kanashiroi* OHWI, *Cheirostylis kanashiroi* OHWI, *Habenaria amanoano* OHWI がある。昭和59年大病を患い約7ヶ月入院し、退院後は元気であったが、昭和60年7月24日急に亡くなられた。まことにおいしい人をなくされたものである。ここに氏の数々の輝かしい業績を偲び、心から御冥福をお祈り申し上げます。住所は那覇市繁田川1-1-10

○ 岐阜県植物研究会誌 第2巻。岐阜県植物研究会、昭和60年5月発行。B5版、52頁。

本会は岐阜薬科大学の水野瑞夫氏が会長で、事務局は岐阜大学教育学部生物学教室におかれている。編集委員には本会々員の高橋 弘・安藤志郎・後藤宮子・高野裕行・田中俊弘・成瀬亮司等の方々加わり、未だ若い会であるけれども、会誌を拝見すると、熱意が満ちあふれていたのもしい。本号の登載論文をみると、「中部地方におけるクロモジの葉の変異、岐阜市大洞のシデコブシ群落、飛騨地方に自生するハギ属ヤマハギ節の分布、飛騨のシダ植物 1. 地域別分布の概要、岐阜県山県郡伊自良村の種子植物分布知見とシダ植物相、飛騨における四季咲のサクラ、久瀬村和佐谷の藜苔類目録」など多彩である。今後の御発展をお祈り申上る。

○ 東北植物研究会 第2号。東北植物研究会、昭和60年5月10日発行。B5版、58頁。

本誌は投稿規定によると、北本州に関する論文・短報・資料などとなっている。本号に登載された本会々員の著作には、湯沢陽一：東北地方の苔類2、津軽半島；高田 順：秋田県植物分類ノート2, *Pseudolysimachion kiusianum*；上野雄規：宮城県産スミレ属；斎藤信夫：ツヤナシイノデの新産地などである。御入会希望の方は上野雄規氏(〒989-02白石市城北町7-28)に申しこまれるとよい。

○ 福岡の植物 第10号。福岡植物研究会、昭和59年12月25日発行。B5版、232頁。頒価2,500円(郵送料350円、注文は〒815福岡市南区平和2丁目11-8 筒井貞雄宛)

福岡県では昭和10年前後に、鍋島与市・竹内亮・中島一男・初島住彦・吉岡重夫などの優れた諸先達が活躍されて、植物研究のいしづえがつけられた。本会はその伝統を引継ぎ、さらに発展させるべく努力を重ねられていて、常々敬服申上げるところである。本号は福岡植物研究会(発足時は福岡県植物誌編纂委員会)の設立以来10年目を迎えるに当り、それを記念したもので、会員以外の特別寄稿を含め、20篇、230頁余りの大冊となっている。序文に「よく続いたものだと思っている」と書かれているが、10年はまだ若輩である。20年、30年と今後益々御精進されることを期待申し上げたい。

○ 山口県植物研究会々報 Vol.1. No.2。山口県植物研究会、昭和59年11月1日発行。B5版、12頁。(入会希望の方は〒754山口県小郡町田町 岡 国夫宛)